

# 平成18年度 一般会計予算

## 反対 討論

柿崎直治

平成18年度一般会計予算について反対の討論をします。

18年度一般会計予算は新町長が組む初めての予算であります。3カ年間に5億円の削減という大きな行財政改革目標の中で編成されなければならず、その上、昨今の景気低迷から昨年比約1億円からの町税減収見込みを余儀なくされた緊縮予算となり、予算編成上並々ならぬ苦労があったことは充分理解しております。予算全体としては評価できるものもあり、その点から予算すべてを反対するものではありませんが、

要所において町長の施政方針が予算に反映されておらず、それらについて反対の理由を申し上げます。まず第1点は観光関連の予算の大幅な削減であります。観光一般管理費の中の観光施設整備資金で1千500万円ほど削減し、今予算では1千万円になりました。この貸付金制度は観光事業に必要な施設整備のためにあるものですが、償還期間も10年と長くまた金利も低く、観光のためのスポーツ施設建設などに利用しやすく、将来にわたって町民が有意義に活用できるものとして元予算を継続

すべきであると思えます。次に平成11年から続けていた観光の町づくり推進事業補助金2千万円の廃止であります。これは11年から始めた補助事業で湯沢つちたる観光協議会、湯沢神立観光連絡協議会、マウンテン苗場観光協議会など3エリアの誘客イベントなどに対して1エリア700万円を限度として補助していたものです。中里秋祭り、観光周遊バスこころ号運行、春のヘリスキーなど、各地区がそれぞれ企画してようやく地域の特色あるイベントとして定着してきたものですが、この事

業の廃止によって今後その存続が危ぶまれることも充分考えられます。観光の町として民間活力による新たな観光資源の開発ということを考えれば、この予算の廃止には賛成いたしかねます。次に2点目ですが、総務費一般管理費の中の町長車運転委託料の増額計上です。昨年は町民にとって最も身近なものである町内会運営補助金ですら削減している現状や、議会からも町長公用車廃止・縮減についての議論がされている昨今、今議会でも40万円の補正を計上し、更に18年度予算では昨年より30万円増額して400万円の運転業務委託料計上は、黒塗りの車の後席に乗るのは好きでないと答弁している町長の考えと

は逆行しています。これでは到底町民からの理解は得られません。すべきは前年より減額予算を計上し、町民に健全財政構築の範を示すべきではなかったでしょうか。以上18年度予算反対の要点を述べましたが、最後に評価できる点も申し述べておきます。学校教育費関連でAED(自動体外式除細動器)関係の予算計上、住民課関連で町民からの要望が大であった粗大ゴミ収集の実施、人間ドック対象年齢の引上げ、福祉保健関連予算の微増、建設課関連で「町づくり交付金事業」と「バリアフリー歩行者空間ネットワーク事業」などへの積極的取り組みなど評価いたします。